

Q;親を処置に入れるのと入れない場合はどう違うのでしょうか？

親を処置室に入れ
ないようにしている

子どもが動揺し泣く・
暴れる・抵抗する

処置が難しくなる

子どもを固定・抑制す
る(馬乗り、羽交い絞め
など)

子どもが自分の力を発
揮できない

自信・自尊心低下

親を処置室に入れるか入れな
いか、子どもと親に確認して
選択してもらおう

親の協力を得る
子どものニーズに合う

子どもがじっとしてできる
処置がスムーズ

自信につながる
医療者への信頼感↑

子どもができる力を
発揮する

親を処置室に入れない場合、親との分離不安がある子どもは激しく動揺し、親にしがみついたり、暴れたり抵抗したりすることがあります。その結果、処置が困難になり子どもを固定し抑制することが必要となりますが、何も説明しないでいきなり押さえつけて行くと子どもが自分の対処力を発揮できず地震や自尊心を低下させてしまうことにつながる可能性があります。

親を処置室に入れるかどうかは、子どもと親に要望を確認して選択してもらうことが重要だと考えます。子どもによっては親が側にいることで安心して力が出せる子どももいれば、親に見られたくないという年長の子もいます。また、親御さんにも痛みのある処置を見ることが苦手な方や、見て安心する方もいらっしゃると思います。要望に応じて対応することによって、親の協力を得やすくなり、子どものニーズに合い、対処力が発揮できたことにより処置がスムーズに行うことにつながると考えられます。さらに、子どもが意見を尊重されることによるコントロール感が自信になり、医療者への信頼感が得やすくなるのではないのでしょうか。